

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0370600512
法人名	社会福祉法人 平和会
事業所名	グループホーム いいとよ
所在地	岩手県北上市村崎野12地割74番地28 (電話) 0197-68-2420

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興事業団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年11月11日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	16 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名	
要介護3	7 名	要介護4	2 名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 84, 2 歳	最低	77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高見中央クリニック 和賀歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成21年3月、開設予定の県立中部病院の西200mほどの閑静な田園地帯に立地し、2つのグループホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅支援センター、ヘルパーステーションが同一敷地内で運営されており、各施設で勤める理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、管理栄養士等、各専門家の支援を受ける環境ができています。2つのグループホームは南乃家、北乃家と名付けられており、分割されてそれぞれ独自に運営されているが、廊下で結ばれており有事の際はすぐに連携できる特徴を持っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との連携強化が図られるよう、運営推進会議のメンバーに婦人会、老人クラブなどを加え、広く地域の考え方などを取り入れていけるよう配慮されている。また、広報活動などを活発にしていく体制ができつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の内容充実が特に大切と考え、積極的に取り組み、また不十分な部分は早急に取り組むようにしており、婦人会や児童委員等の協力を予定している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今までは、行事の報告やその反省改善点などの話し合いが主であったが、今後はサービス内容の充実なども話題にすることとしている。また、委員の意識向上のため、他のグループホームの見学を行い、地域と密着した活発な意見が出るようにメンバー構成を検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の希望として、職員の異動は出来るだけ控えて欲しいとの意見があるが、法人としての事業展開や職員の希望等を踏まえて、適材適所の人事交流を図っている。異動の際には前もって時間をとり、新任者と利用者が馴染めるよう配慮されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大きな畑仕事などは近隣の農家の方に有料でお手伝いをして頂いている。サツマイモ堀り、いものこの収穫などは、近くの保育園児と一緒に生活に変化をもたせるようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎月の職員会議で理念を確認し合っている。内容は平易でわかりやすい。玄関にも掲示されているが、掲示場所には工夫が必要と思われる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者への声かけや関わりの中から、個々のこだわりや楽しみを引き出せるように援助している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で地域の文化祭の見学を計画している。また、地域の幼稚園や小・中学校との交流が行われている。	○	田園地帯で隣接する住宅が少なく、地域との交流が行いにくい環境にあるが、集落、行政区などの住民と積極的に関わりを持つなどの工夫が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価を通して関係者で話し合い、見直しの良い機会となっており、改善の努力がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は開催されている運営推進会議での意見や案について、前向きに検討され、できるだけ活かされるように努力している。	○	会議の内容は今まではグループホーム利用者の生活の様子や行事報告などが主であったが、運営推進会議の構成メンバーを増員するなどの検討が行われており、メンバーの広がりにより、更に地域の情報や活発な意見が出され改善につながる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護受給者などについては、関係課との連携が良くとられているが、困難事例が発生したとき以外は、連携が薄いように見える。なお、同法人に隣接する特養には地域包括支援センターのサブセンターがあり、センターの職員には運営推進会議の委員となってもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年1回、家族会を開催している。開催の際は施設での生活状況等をお知らせしている。また、広報を2ヶ月に1回程度発行している。金銭管理は雑費、小遣いなどについて通帳を管理している。通帳は法人事務所、印鑑はホームで管理している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム独自のアンケートを12月に予定している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>地域密着型のデイサービスが新事業として予定されており、これに伴い人事異動が予定されている。設立準備室をホーム内に設置し、1ヶ月以上の期間を設けて人事異動を行うことによって利用者へのダメージが軽減されるように配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県グループホーム協会の定例会やブロック会議等に出席し、その内容を職員に報告するようにしている。また、系列のグループホームと交換研修をしている。</p>	○	<p>全職員が出来るだけ計画的に研修に参加できるよう個々の職員の研修記録や年次計画があれば、更に職員の励みになるものと思われる。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>参加しているブロックの定例研修会で、他のグループホームの職員との会話の中で参考になる意見、考え方を聞くことが出来ることは自己の資質の向上にもなるものと思われる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の自宅を事前に訪問し、顔見知りになるよう努めている。また、家族と一緒に見学する中で、一層なじみが持てるように工夫している。利用開始時に一緒に泊まる方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者の出来ることを大切にして支援している。調理や廊下のモップがけ、洗濯物の干し方、取り入れ、たたみ方、などを積極的に行ってもらっている。文化祭に向けた作品作り、野菜の収穫などにも参加しており、外出やかるた等のゲームに楽しんで参加されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向をケアプランで確認できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランで確認できた。同法人内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士からの協力が得られる体制ができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	流涎(りゅうぜん)改善に言語聴覚士と共に取り組みを予定している。嚥下機能の低下予防、誤嚥性肺炎の予防にもなり、効果を期待している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士の活用、輸送車両の調達等有機的に連携をはかっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を確認し、本人や家族の意向に沿った援助をしている。歯科については特別養護老人ホームの協力医療歯科の利用が可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化、看取り介護に関する指針で確認できた。このことについて説明を行っており、家族、医師、介護士を交えて話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言を大切にしながら支援している。フェイスシート、ケアプラン、会議録、介護日誌等は事務室内に整理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の話をやさしく聞くことを心がけ、希望がくみ取れるよう支援している。買い物の希望等を記録で確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりで手洗いする方、調理の手伝いをする方、後片付けを自分の仕事のようにしている方など、自分の出来ること、したいことを大切にしよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に出来るだけ沿えるように援助している。入浴を嫌がる利用者には、声かけやタイミングを工夫しながら、入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞や雑誌、晩酌を楽しみにしている利用者には、楽しみが継続できるよう援助している。また、買い物を楽しんでいる利用者には、家族から了解を得た範囲内で買い物を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のコンビニやスーパーなどで買い物を希望する利用者には希望がかなえられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は特別の時以外は玄関に鍵をかけないようにしており、利用者が庭の草取りをしたり、散歩に出かけるときは、寄り添うように見守り支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	北上市消防署の協力の下に、法人全体の防災訓練を年2回以上実施している。災害時に地域からの協力体制をどのように整えたらよいか構想中である。	○	夜間は職員が1人体制となるため、夜間に災害が発生した場合には近所の協力体制があれば、迅速な避難や支援が期待でき、非常に有益と考えられる。早急な体制作りを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士から毎月メニューを確認してもらい、指導を受けている。利用者一人ひとりの水分摂取量、食事チェックの記録をとっており、この記録を確認できた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂や廊下の照明は程よい明るさで、落ち着いた雰囲気になっている。居間兼食堂の天井は吹き抜けになっているため開放感があるが、直射日光が入らないように窓の角度が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や写真、テレビ、仏壇など本人の希望する物を自由に持ち込めるように配慮されている。		